

町内全域に大きくなつめ跡「七・一五豪雨災害」



被災された皆さまへのお見舞いと復興に向けて

去る7月15日夕刻、当町を襲った集中豪雨により被災されました皆様に心からお見舞いを申し上げます。お亡くなりになりました3名の方のご冥福をお祈りするとともに、被災世帯皆様の一日も早い復旧再建を心からご祈念申し上げます。

この度の記録的な集中豪雨は、近年にない大災害を当町にもたらしました。当日は長雨が続き夕方からの突如とした激しい豪雨が当町を襲い、河川の氾濫や住宅への浸水、崖崩れや道路の寸断などいたるところで被害が発生しました。

野上地内では土石流により3名の方がお亡くなりになるという痛ましい被害が発生するなど、家屋や農地、山林、道路、公共施設など町内全域にわたり甚大な被害を被りました。

ご遺族や被災されました皆様の心中を察しますと、町長としまして誠にやりきれなく残念な気持ちでいっぱいになります。強い雨が降りますと、今でも当時の記憶が脳裏によみがえって参ります。

現在、町としましては被災箇所の一日も早い復旧復興のため、国や県と協力しながら全力で当たっていますが、箇所数が大変多いため全てを復旧するには相当の期間が必要になると予想しています。町民の皆様にはご不便やご迷惑をお掛けすることになりますが、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

さて、近年の温暖化に伴う世界的な異常気象により、突発的な集中豪雨による河川の氾濫や土石流の発生など、人命をも奪う災害が日本のみならず世界各国各地で頻発をしております。こうした自然現象の発生をくい止めることは容易ではありませんが、災害に対する日頃からの備えで、被害の拡大を防止したり最小限にとどめることはできるため、町も防災対策は最重要課題の一つとして取り組みを進めています。

しかし、大規模で広範な災害が発生した場合、行政のみの対応には限界があります。自然災害が多発している現在、地域における「自主防災意識」や「助け合いの心」が災害に強い町づくりに欠かせない要素であると思います。

これからも温暖化の進行により局地的な豪雨は増えていく傾向にあり、また、東海地震や南海地震はいつ起こっても不思議ではないと言われております。

被災時に皆さんからお聞きしました様々な意見や提案、職員が提起しました問題点や反省点、県主催の7・15豪雨災害検証委員会からの提言など今回の災害から得た様々な教訓を風化させないようにしっかりと記憶に留め、今後の安全な町づくりに役立てて参る所存です。

末筆になりましたが、地域の皆様はじめ消防団の皆様、県や自衛隊、警察の皆様には多大なるご支援をいただきましたこと、また、励ましの言葉や義援金、数々の支援活動等を賜りました皆様に心から感謝を申し上げます。